

第21回 精華町地域公共交通会議 議事要旨

■日時・場所

- 令和7年2月10日（月）午前10時30分～11時25分まで
- 精華町役場6階 審議会室

■内 容

1. 開 会

2. 委員紹介

3. 案件

（1）精華くるりんバスの利用状況について

- 事務局から資料1について説明。

【説明概要】

- ・ 前回会議以降、精華くるりんバス北ルート全線及び南ルートの一部がデマンド交通に移行し、併せて南ルートのダイヤ改正を行った。
- ・ 利用状況について、全体分では9月分までは前年度と比較して増加傾向で、コロナ禍前の平成30年度の利用状況と比較しても、同程度まで回復傾向であった。
- ・ 10月以降は先述のとおり、デマンド交通への移行により、運行本数が減っていることから、精華くるりんバス利用者数及び運送収入は前年度と比較して減少となった。
- ・ 北ルートの利用状況について、9月末までは前年度と比較して増加傾向で、直近5年以内のデータと比較して、最も利用者数が多い状況であったが、10月以降はデマンド交通に移行したことから、データは無い。
- ・ 南ルートのうち、山田川駅行きの利用状況は、前年度と比較して12月末まで増加傾向で、東畑エリアを経由しなくなった減少分よりも、「役場・図書館前」や「光台コミュニティホール」での利用者数の増加分が上回ったことから、10月以降も増加傾向となったと考えられる。
- ・ 南ルートのうち、祝園駅行きの利用状況は、9月末までは前年度と比較して増加傾向であったが、デマンド交通への移行やダイヤ改正により、10月以降は減少傾向となっている。
- ・ 新年度に開催予定の会議において、今年度の利用状況を分析した内容を改めて報告する予定。

○質疑応答

（泉谷委員）

- ・ 資料5ページの南ルート（祝園駅行き）の減少の要因として、学研エリアで勤務をする人がダイヤ改正により利用しなくなったことによるものなのか、デマン

ド交通への移行によるものなのか、現時点でどのように把握しているか。
→学研エリアでの利用者数は減少しており、ダイヤ改正により、通勤等で利用していた方々の利用が減少しているものと考えている。また、デマンド交通への移行により、東光小学校バス停での利用者数が減少している。細かな数値等を把握していないが、その２点が大きな要因だと考えている。（事務局）

（２）デマンド交通の利用状況について

○事務局から資料２について説明。

【説明概要】

- ・デマンド交通は、令和６年１０月に運行を開始し、１２月末時点で利用者登録が５６４人で、主に７０代と８０代の方の登録が多い。また、性別で区分すると、全体の約３分の２が女性となっている。
- ・１２月末までの利用状況として、予約件数が１，６５０件、利用者数が２，１０９人と多くの方に利用いただいている。利用登録と同様、７０代と８０代の方の利用が多く、性別で区分しても約３分の２が女性となっている。
- ・予約方法について、電話予約が全体の約３分の２、ウェブ予約が約３分の１となっており、ウェブ予約によるメリットを周知し、引き続きウェブ予約の件数を増やしていきたい。
- ・広報周知について、運行開始前に案内チラシを各戸配布（デマンド交通移行エリアのみ）し、１２月末に案内チラシを配布するなど行っており、引き続き案内チラシを活用して広報周知を行う予定。
- ・昨年１１月には、「せいか祭り」にデマンド交通のブースを設け、実際の運行車両を置くなどしてＰＲを行い、来場者への説明を実施した。
- ・昨年１２月に精華町シルバー人材センターの協力もあり、サロン参加者向けに出前講座を実施し、実際にその場で運行予約をするなど、利用促進に向けた周知を行った。
- ・精華町にて、「せいか３６５健康ポイント事業」を実施しており、健康づくりの取り組みに対してポイントを付与し、健康増進を促しているが、公共交通を利用した外出機会の創出により、健康増進に繋げてもらいたい目的で、デマンド交通の利用もポイント付与の対象とした。現時点においてポイント付与の実績が少ないことから、引き続き周知を図っていきたい。
- ・昨年１２月にアンケート調査を１か月間実施し、満足度に関する回答が、「とても満足」または「満足」と回答した方が全体の約７３％で、概ね公表ではあるが、引き続き利便性向上に向けて取り組みたいと考えている。
- ・アンケート調査において、デマンド交通の良いと思う点、改善してほしい点を質問させていただき、自由記述にて回答した結果を一部紹介しているが、アンケート調査に関する分析結果は、後日改めて町ホームページで公開する予定。
- ・運行開始して間もないことから、分析内容を整理し、新年度に開催予定の会議において、今年度の利用状況を改めて報告する予定。

○質疑応答

(田中副会長)

- ・ 資料１では、精華くるりんバスの利用者数が９月まで毎月６，０００人を超えているが、１０月以降は毎月約４，０００人ほどで、３か月で６，０００人減少したものと推測される。資料２では、デマンド交通の利用者数が３か月で約２，０００人とのことで、利用者数が約３分の１となっているが、利用したい方が利用できているのか、使いたくても使えていない方がいるのか、どのように分析しているか。

→運行開始して約４か月が経過したが、デマンド交通の利用方法などに関する問い合わせが今でも寄せられており、広報周知がまだまだだと感じている。また、精華くるりんバスと比較して、デマンド交通の運賃が高いというご意見もいただいております、利用しない選択をする方も一定数いらっしゃるものと考えている。運行開始前に各地区にて利用説明会を実施したが、精華くるりんバスの利用者が多い地区において、説明会を実施できていないこともあり、出前講座の実施など引き続き広報周知を実施していきたい。（町）

(中尾会長)

- ・ 説明のあったアンケート調査では、利用者だけのサンプルなので、普段利用していない人にもアンケート調査を実施し、全体像を掴む方が良いと考える。

(泉谷委員)

- ・ むくのきセンターでの利用状況について、これまでの精華くるりんバスからデマンド交通に移行したことにより、どのように需要が変化したかわかる資料があれば示していただきたい。

(３) 次年度以降の取組みについて

○事務局から資料３について説明。

【説明概要】

- ・ 令和５年度は、利用者数が６４，８８８人でコロナ禍以降回復傾向が続いているが、委託費は約３，８００万円となっており、過去最高の支出となった。
- ・ これまでも会議において、精華くるりんバスの利用状況を報告してきたが、利用者数は回復傾向であるものの、人件費や燃料費の高騰などの要因により、町からの委託費が増加し続けている。
- ・ 令和６年度は精華くるりんバス北ルート全線及び南ルートの一部において、デマンド交通に移行したが、人件費や燃料費の高騰により、委託費の減少幅はそこまで大きくないものと見込んでいる。
- ・ 精華くるりんバスの運賃について、町内公共交通や近隣自治体でのコミュニティ交通と比較しても、最も安価となっている。
- ・ 今後、精華くるりんバスの適正な運賃設定に向けて準備を行う場合、運賃協議会

の設置など必要となることから、委員のみなさまにご意見をお伺いして協議を進めていきたい。

- ・ デマンド交通について、東畑区から乗降ポイントの追加に関する要望書が提出され、現在、区内に設置の2か所に3か所加えて、計5か所としてほしいという内容であった。
- ・ 東畑区については、高低差が大きく、また、直線での移動が困難であることから、今回の要望に記載の候補地を乗降ポイントとすることは妥当であると判断し、現在、関係各所で事前相談を実施している。
- ・ 東畑区以外にも、乗降ポイントを設置することで、地域住民の移動に係る利便性向上を図ることのできるエリアもあることから、地元自治会と協議を始めたいと考えている。
- ・ 今年3月で精華くるりんバス運行開始20周年を迎えることから、それを記念した取り組みを実施していきたいと考えており、3月15日（土曜日）と16日（日曜日）の2日間、精華くるりんバスとデマンド交通の運賃を無料とする。
- ・ その他の記念事業について、今後企画していきたいと考えており、委員にも相談したうえで、公共交通の利用促進に繋がる取り組みを実施したい。

○質疑応答

（中野委員）

- ・ 精華くるりんバスの利用状況が回復傾向との説明もあったが、奈良交通路線バスの運賃改定により、路線バス利用者が精華くるりんバスの利用に流れている可能性はあると思われる。
- ・ 各バス事業者においては、ここ数年、運賃改定を控えていたが、昨今の労働条件改善や経費等の高騰により、運賃改定を行わないと路線を維持できない状況となっていることから、運賃改定が行われている。
- ・ 資料に記載の精華くるりんバスの課題だが、今後も交通ネットワークを維持し続けるためには、検討していかなければならないのではないかと感じる。

（泉谷委員）

- ・ 料金の見直しは社会情勢もあり、判断が難しいと思うが、総合的な交通政策として、精華町内の公共交通を定額制で利用できる仕組みも意見として提案したい。

（中尾会長）

- ・ 公共交通に対して、自動車の運転免許証を持っていない人向けの乗り物というイメージが強いが、免許返納後に公共交通を利用しようにも、利用方法がわからない等、切り替えがスムーズではない場合もあることから、自動車を運転できる内から、公共交通の利用を促す意識づくりは重要だと考える。
- ・ 先ほどの説明の際にも、アンケート調査について触れたが、公共交通を利用していない方向けにアンケート調査を実施し、なぜ公共交通を利用していないの

かということを把握したうえで、その人たちに向けて公共交通の利用に関するアプローチをしていく必要があるのではないか。

- ・デマンド交通は柔軟性が高いからこそ、要望に対応しやすい部分もあるが、公共交通として対応すべきものと、そうでないものについて、一定の線引きをしておく必要はあると考える。

（福田委員）

- ・精華くるりんバスの運行ルート見直し、ダイヤ改正により、町南部エリアから役場方面への移動時間が10分ほど短縮され、とても便利になったと感じている。
- ・バスの運行時間に合わせて行動するこれまでの考え方を、行動に合わせて公共交通を利用する考え方にシフトできれば、増加する高齢者の自家用車利用の必要性も低下していくのではと感じた。

（事務局）

- ・現時点においては、運行して間もないことから、利用者向けのアンケートから実施させていただいていた。
- ・今後は対象者を広げたアンケート調査も必要であると認識しているが、運行して間もないこともあり、デマンド交通の利用方法など浸透していない部分もあるため、タイミングとしては少し早いのではないかと考えている。
- ・先日の精華町シルバー人材センターでの出前講座など、対面での案内が効果的だと考えており、各自治会のほか、関係団体と協力し、引き続き利用促進に努めていければと思う。
- ・デマンド交通のエリア分けについても、先ほどのアンケートの回答でもあったとおり、直接行けるようにしてほしいとの意見を多く頂いているが、運行台数に限りがあることや、各地区の商店が利用されなくなること、商店が撤退されてしまうと買い物難民が生じる可能性もあるので、地域公共交通会議の場であったり、アンケート調査などで、良い方法を模索していきたい。

（岩田委員）

- ・デマンド交通の利用者の中には、行きはデマンド交通、帰りはタクシーなど、うまく活用している住民もいらっしゃることから、町や運行事業者側で公共交通のうまい使い方など周知できれば良いのではないかなと思う。
→案内チラシに上手な使い方などを含み、公共交通の利用方法を周知するのも効果的かもしれない。（中尾会長）

（中野委員）

- ・今後、バスをどうするか、デマンド交通をどうするか、それを考えるにあたっては、地域の買い物事情を踏まえて判断する等、まちづくりも含めて検討して

いく必要があることから、地域公共交通計画を策定するのも1つの方法だと考える。

- ・交通が地域にとって、どのような役割を果たすべきなのか、場当たりの議論を避けるためにも、あらかじめ方向性を示す意味でも、計画を策定し、ビジョンを立てて動いていく方が良いと思われる。

4. 閉 会